

暖地におけるビートの採種に関する研究 (第1報)

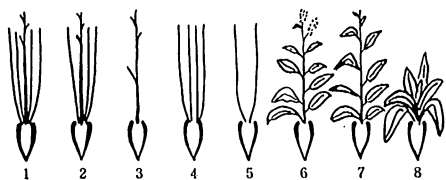
10月に播種した GW 359 の抽苔草姿と採種量

高木敬一郎・杉原啓司・今永徳明
(大分県農業試験場)TAKAKI, K., SUGIHARA, K. and IMANAGA, N.
On the Seed Production of Sugar Beets in Temperate Japan
(I) Bolting types and seed yields in sugar beets,
GW 359, sown in autumn.

ビートの抽苔草姿をみると根部の形や大きさと同様に、いろいろなタイプがみられる。著者らは GW 359 について、このようないろいろの抽苔草姿を8型に分類し、抽苔草姿と採種量との関係について若干の調査をしたので報告する。

材料及び方法

GW 359 を昭和34年10月10日に播種し、翌年の7月6日～8日に採種した。1区面積は10m²、4連制である。抽苔草姿型は次のように分類した。



1. 1本の主茎を中心に4本以上の分岐のあるもの。
2. 1本の主茎を中心に1～3本の分岐のあるもの。
3. 1本の主茎のみあるもの。4. 主茎がなく根元から分岐だけ出ているもの。5. 主茎が2本あるもの。
6. 1～5迄のもので開花成熟が遅延したもの(採種不能の場合もある)。
7. 6より更に遅延し、抽苔しただけで開花に到らなかつたもの。
8. 未抽苔のもの。

結果及び考察

本試験の播種時期は10月10日であり、他の試験結果と比較した場合、8月播きあるいは9月播きに比べて抽苔が遅延し、初期の抽苔率が低くなっている(第1表)。これらは播種時期が遅れたことによるものと推定され、従つて採種量も低い(第2表)。

第1表 抽苔率調査

4月14日 (187日目)	4月18日 (191日目)	4月28日 (201日目)	5月23日 (226日目)	7月6日 (270日目)
41.80%	65.23%	94.92%	97.66%	99.22%

第2表 採種量

採種量 10a当り	栽植本数 10a当り	採種率	採種量 個体平均
118.5 kg	5,570 本	91.2%	25.3 gm

以上のような条件で、著者らは前述の分類方法で抽苔草姿と採種量との関係について調査を行った(第3表)。

第3表 抽苔草姿別採種量

抽苔草姿	個体数	同左割合	採種量	同左割合	採種量 個体平均
1	115	48.2%	3,559 gm	64.6%	30.9 gm
2	49	20.5%	1,354	24.6%	27.6
3	20	8.4%	448	8.1%	22.4
4	28	11.7%	134	2.4%	4.8
5	1	0.4%	8	0.1%	8.0
6	5	2.1%	9	0.2%	4.5
7	19	7.9%	—	—	—
8	2	0.8%	—	—	—
計	239	100.0%	5,512	100.0%	25.3

1, 2, 3型は個体数百分率で77.1%、採種量百分率で97.3%を占め、1, 2, 3型以外の草姿型の出現割合は低く、その上採種量は殆んど問題にならない。従つて採種量の増加をはかるためには1～3型の割合が増えることが望ましいが、そのことと採種された種子の後代におよぼす品質の関係は別の問題である。本試験ではそれにはふれていないが、暖地における採種を進めてゆく上に品種による播種期、栽培様式等による草姿の変化も考えられ、その間にはいろいろな重要な問題があり、今後十分に検討する考えである。

終りに、本報告を行うにあたり、色々と御教示戴いた大分県農業試験場長鹿野田快夫博士に深甚の謝意を表す。